

古墳時代の土器・装飾品

菅原東町 菅原東遺跡出土 古墳時代前～中期(4～5世紀)

菅原東遺跡では方形に濠をめぐらした古墳時代の豪族の居館跡が見つかりました。古墳時代の土器は弥生土器と同様素焼きの土器ですが、装飾がほとんどないシンプルなものでは**土師器**と呼ばれます。またこの時代には窯をつくり、1000℃前後の高温でやく質のかたい土器、**須恵器**をつくる技術が韓国から新し

く伝わりました。菅原東遺跡では**ガラス小玉**や**管玉**のほか、古墳の副葬品に多い貝製の腕輪を模した**車輪石**や**石釧**なども出土しています。



土師器・須恵器



ガラス小玉・管玉・車輪石・石釧・緑色凝灰岩原石



菅原東遺跡 濠をめぐらした豪族の居館跡 南東から